

文化財市庁舎をめぐる「縁故者」の力

—大牟田市庁舎の事例より—

○永吉 守（久留米大学比較文化研究所・西南学院大学・福岡県立大学・西九州大学・久留米高専等非常勤）

キーワード 国登録有形文化財 遺産化 行政建築 市民運動 文化政治

I. 緒言

本発表は、福岡県大牟田市在住かつ研究フィールドにしている筆者が、国登録有形文化財である大牟田市庁舎本館(以下、「現庁舎」と省略)の建て替え問題について、社会的・文化的な価値づけの文化政治を明らかにする目的で進めている現在進行形の問題として位置づける。本年度の研究および本報告は、昨年度の「文化遺産としての行政建築をめぐる社会・文化的価値—大牟田市庁舎の事例より—」の続編であるので、基本的な流れについては昨年度の報告を参照されたい。

II. 研究方法

本研究は、科学研究費助成事業基盤研究(B)(19H01393)の「日本植民地期遺産をめぐる歴史認識の文化人類学的研究—建築物のライフヒストリーから」(研究代表: 上水流久彦・県立広島大学教授、2019-2022 年度)の分担研究の一環として、大牟田市庁舎整備をめぐる市政動向を市当局発表やメディア報道および市民団体や縁故者の活動を参与観察で調査した。

III. 結果

現庁舎は 1936(昭和 11)年落成の鉄筋コンクリートの建築物であり、国の登録有形文化財(2005 年)でもある。2016 年 4 月の熊本地震がきっかけとなり、築 80 年余の現庁舎の耐震性能に問題ありとされ、大牟田市は 2019 年 2 月に「大牟田市庁舎整備に関する基本方針(案)」を作成し、その内容は現庁舎解体を前提とするものであった。

一方、現大牟田市庁舎を文化遺産もしくは市民のシンボルと考える市民団体「登録有形文化財大牟田市庁舎本館の保存と活用をめざす会」(以下、「めざす会」と略)は市当局の案に抗議的要望書を出し、保存署名を展開し、議会に働きかけ、その価値を考えるシンポジウム等も定期的開催し、現大牟田市庁舎保存の経済合理性を主張している。結果として、大牟田市議会で 2019 年度予算から市庁舎整備に関する予算がカットされた形で修正予算の成立をみたが、大牟田市は現庁舎活用に含みを持たせながらも新庁舎建設の方向で 2020~2021 年度も案を再構成中である。

このような状況下、「めざす会」に強力な支持者が出現した。それが、福岡市在住の建築家、松岡恭子氏をはじめとする人々であり、松岡氏を中心に WEB にて「大牟田市庁舎本館ファンクラブ」が組織され、めざす会との協働で現庁舎の保存・活用に向けて動き出した。2019 年末に松岡氏の知人で建築写真家の針金洋介氏による大牟田市庁舎の写真展覧会が福岡市内と大牟田市内で開催され、また、「大牟田市庁舎本館ファンクラブ」には 250 名ほどのメンバーを数え、松岡氏らと「めざす会」の協働によるシンポジウムが 2020 年度および 2021 年度に複数回開催された。このように、大牟田市在住でない人々、つまり「縁故者」の発言力が注目されるのである。

2019 年度~2020 年度、大牟田市は再度市民アンケートを実施し、市民は経済合理性を重視するという結果が出た。さらに、「めざす会」は独自に市民アンケートを 2020 年度末に実施し、2021 年度に集計した結果、何らかの形で現庁舎本館本館を保存・活用したいという意見が圧倒的であり(約 84%)、本館解体は少数派(約 9%)という結果となった。

IV. 考察

結果として、市庁舎は多様な意見を持つ地域住民を中心としながら、多様な縁故者も交えつつ、価値づけられるのである。そのような意味で、市庁舎の文化的価値を決定づけるは行政当局だけのものではなく、また、地域住民だけのものでもなく、多様な属性を持つ縁故者も含めて関与しているものではないだろうか。

参考文献

- ・木村至聖・森久聡(編)『社会学で読み解く文化遺産—新しい研究の視点とフィールド—』新曜社、2020 年
- ・松岡恭子「大牟田市庁」『産経新聞』(コラム 松岡恭子の一筆両断)2019 年 8 月 5 日付
- ・登録有形文化財大牟田市庁舎本館の保存と活用をめざす会「大牟田市庁舎本館の利活用と市庁舎整備に関する市民アンケート」調査結果の解説(同会より入手した資料)

地域在住の高齢者における MHPG と脳形態画像解析結果の関連

今村 義臣 (久留米大学比較文化研究所, 佐賀大学医学部精神神経科)

キーワード MHPG ノルアドレナリン VBM 高齢者 縦断研究

【目的】 ノルアドレナリンの主要代謝産物である 3-methoxy-4-hydroxyphenylglycol (MHPG)は不安, うつ, 認知能力, 注意, さらに生活満足度との関連が報告されている (Watanabe et al., 2012; Imamura et al., 2015). ここでは, 地域在住の高齢者の唾液から測定した MHPG の濃度と, 唾液採取時およびその 4 年後の頭部 MRI 画像所見 (脳体積) との関係をみることによって, ノルアドレナリンの脳に与える影響を調べた.

【方法】 調査対象者: 伊万里市黒川町在住の高齢者で 2005 年 9 月~2007 年 2 月の調査 (time 1) の参加者 (226 名) の中で, 2009 年 10 月~2011 年 3 月の調査 (time 2) にも参加した 174 名のうち, 両方で画像データが揃っている者を分析の対象とした (Table 1). 調査票: 両調査で, 配偶者の有無, 家族と同居といった生活状況, MMSE をはじめとする数種類心理検査, 病歴等の聴取, 診察を実施した. 手続き: Time 2 は週 1, 2 回, 町内各居住区の公民館で, time 1 は地域病院で, 夫々調査を行った. 参加者は予定された時間に来館 (院) し, 採血の後, 記入法の説明を受け, 質問に回答した. なお, 頭部 MRI 撮像は協力病院で, time 1 では調査当日, time 2 は他日に行った. VBM による脳画像の解析では, MHPG (平均値で高低に群分け) および撮像時期 (time 1, 2) の 2 要因による flexible factorial design を用いた. **【倫理的配慮と利益相反】** 久留米大学・佐賀大学医学部倫理委員会承認を受け, 参加者からは文書による同意を得た. 開示すべき利益相反関係にある企業等はない. なお本研究は JSPS 科研費 JP18K18465 の助成を受けている.

【結果・考察】 VBM 解析では, FWE による補正後, MHPG および撮像時期の主効果が夫々認められたが, 交互作用は有意でなかった. MHPG 低群および Time1 において脳のほぼ全領域において有意に体積が大きかった. これは, MHPG 濃度が低いほど認知機能あるいは前頭葉機能が保たれていることを支持する (Li et al., 2008; Watanabe et al.). ただし, 今回の参加者は 4 年間での認知能力の低下は認められない [Table 1: Mini Mental State Examination (MMSE)を参照]. 他方, MHPG 濃度が高いほど, precuneus および小脳の一部の体積が保たれていた (Table. 1, Fig 1). 特筆すべきはこれらの領域が working memory や episodic memory と関連していることである (Cavanna&Trimble, 2006; Schmahmann et al., 2019). これは注意や記憶に關してのノルアドレナリンの正の効果が示されたと考えられる (Li et al., 2004).

Table 1 参加者の概要と各測度の結果

	Men			Women			P*
N	18			52			
Age at Time 1	71.9±4.8			72.0±4.3			0.942
Education (year)	10.6±2.1			9.2±1.6			0.023
Interval of MRI examination (year)	4.3±0.6			4.2±0.7			0.390
sMHPG (ng/ml)	11.1±4.9			13.4±4.5			0.166
MMSE at Time 1	27.8±2.9			28.0±2.1			0.727
MMSE at Time 2	27.6±2.3			28.0±2.1			0.546
Clinical Dementia Rating (CDR) at Time 1 (N)	1	0.5	0	1	0.5	0	0.512 ^b
	0	1	17	0	5	47	
CDR at Time 2 (N)	1	0.5	0	1	0.5	0	0.605 ^c
	0	2	16	1	7	44	

^a Student's t-test was applied except CDR results. ^b Chi-square test was applied;

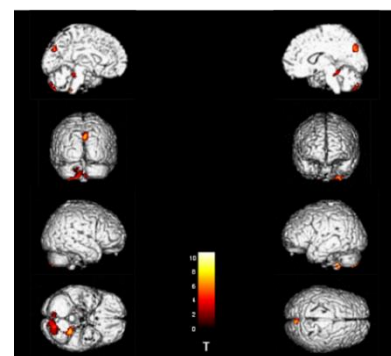
^c Chi-square test was used after numbers in columns of CDR 0.5 and CDR 1 were added up.

【引用文献】 Cavanna & Trimble 2006. Brain 129: 564; Imamura et al. 2015. Int J Geriatr Psychiatry 30: 256; Li et al., 2004. Neuropsychobiology; 50:336; Li et al., 2008. Psychiatry and Clinical Neurosciences 62: 562; Schmahmann et al. 2019 Annu. Rev. Neurosci. 42:337; Watanabe et al. 2012. Psychiatry research 195: 125.

Table 2 MHPG 高群で体積が大きかった脳領域

region	hemisphere	MNI coordinate					P _{FWE-corr}
		X	Y	Z	k		
Precuneus	R	5	-77	38	393	<0.001	
Cerebellum lobule VIII	L	-15	-77	-59	1887	<0.001	
Cerebellum lobule IV-V	L	-18	-36	-23	173	0.002	
Cerebellum lobule IV-V	R	17	-39	-18	169	0.003	

Figure 1 MHPG 高群で体積が大きかった脳領域



筑後川中流域における水害防備竹林の分布からみる筑後川支流の浸水域の検討

篠倉 大樹 (久留米大学比較文化研究所)

キーワード 筑後川 洪水 水害防備竹林

I はじめに

本研究は筆者が進めてきた筑後川の洪水による江戸時代の石高被害を考察するにあたり、必要となった支流の氾濫による浸水域に関する研究である。筆者は筑後川氾濫による浸水域について国土数値情報の浸水域を用いている。これは昭和 28 年の筑後川本流の浸水域をもとにしているデータである。しかし近年多発する内水氾濫のように、筑後川の支流による浸水もあったと考えられるが、そのデータは見受けられない。そのため石高被害算出のための支流の浸水域の検討を行った。

II 水害防備竹林とその分布

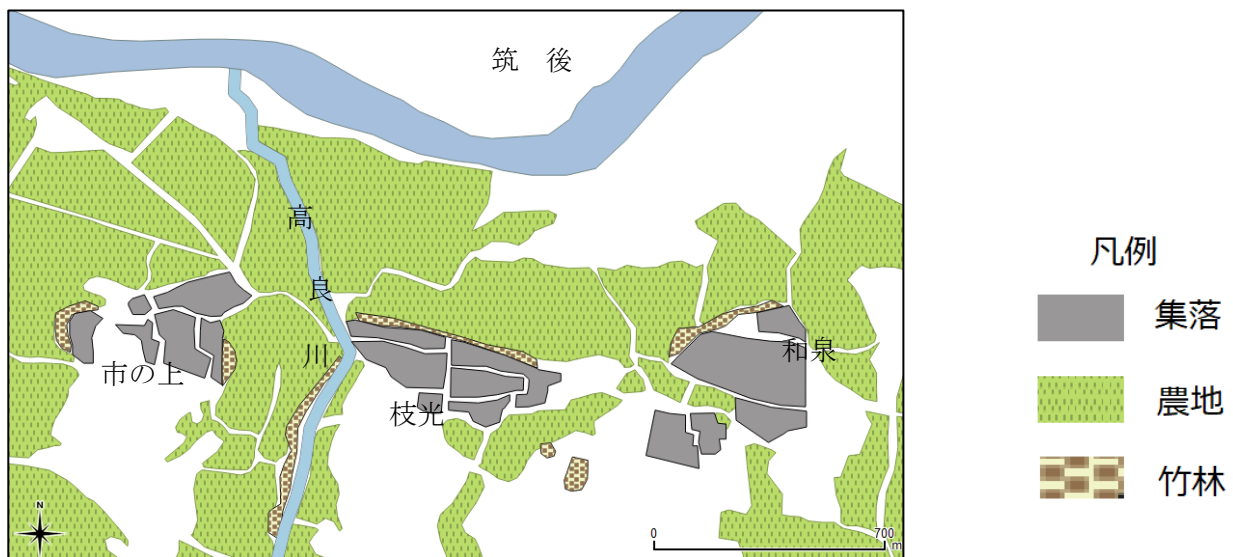
まず四国の吉野川流域など、全国的にみられる水害防備竹林と考えられるものが筑後川流域に存在するのか、その場合はどのような河川や氾濫に備えたものかを検討する。筑後川中流域に位置する合川地域の 3 集落を事例に明治 33 年の竹林分布をみると、和泉、枝光は筑後川方面に広く竹林が分布している。竹林の北側は農地であるが、これらの地点は河岸段丘によって標高差があり竹林 12.5m、農地 4.8m である。一方で市の上北側の筑後川方面には竹林が分布しない。この地点の標高は 14m で、農地部分は 4.8m である。現在、和泉において確認できるが、かつては洪水対策として 1~2m 程度の盛り土を行っていたことを鑑みると、概ね 13~14m 以上の標高があれば、大規模は例外としても中小規模の氾濫に備えることができたと考えられる。これは筆者が以前検証した江戸時代の浸水域は標高 11~13m という点とも一致する。以上のことから、この地域は竹林を河川氾濫に備えた水害防備竹林として利用していたと考えられる。

一方で高良川沿いにも竹林が確認できた。これは高良川の氾濫を想定した竹林であると思われる。この竹林の西側は標高 7.5~10m と低くなっており、高良川の後背地と思われる。また市の上東側の竹林はこの後背地との境界であり、西側の竹林は 7.5m よりも低い地点との境界となっている。

III 結び

以上のことから、これら 3 集落は筑後川および支流の高良川の氾濫に備えた水害防備竹林を利用していたことが分かる。つまり水害防備竹林の分布をみることで筑後川本流以外の支流の浸水域も想定することができるといえよう。

図 明治 33 年における合川地域における水害防備竹林と集落の分



スーパードラッグストア業界の競争激化による地域小売業への影響

若杉 優貴 (久留米大学比較文化研究所)

キーワード スーパードラッグストア スーパーマーケット 買い物難民問題 大型空き店舗問題

I. はじめに

近年、市販薬に加えて一部の食品を廉売することで集客する「スーパードラッグストア」が小売業界で台頭している。本研究では、こうしたスーパードラッグストア業界の動きと、とくに郊外地域における地域小売業への影響を調査した。

II. ドラッグストア業界急成長の背景

経産省によってドラッグストア業界全体の売上統計が公表されたのは2014年以降であるが、統計開始以降売上高は伸び続けており、2018年度は業界上位7社の売上高が揃って過去最高を記録。市場規模は僅か6年間で約5兆円から8兆円弱となり、2019年度には百貨店業界全体の売上高を上回った(図参照)。とくに郊外型ドラッグストア各社は、いずれも食品を廉売することで集客し、利益率の高い市販薬で利益を上げることで急成長を遂げている一方、こうした「食品強化戦略」は市場のひずみを生み、新たな問題も生んだ。

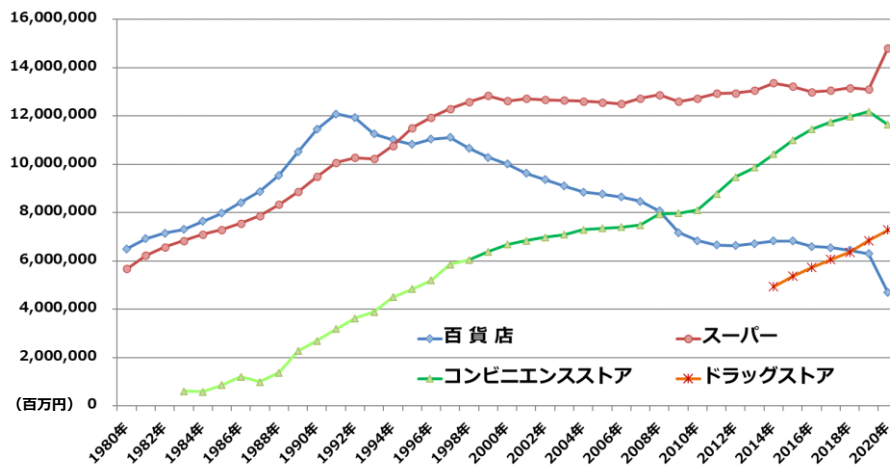
III. ドラッグストア業界の競争激化による地域への影響

調査の結果、ドラッグストアはあえて競合店近くを狙って出店する傾向があり、ドラッグストアが近隣に進出したことで競合商品の売上が下がり、閉店に追い込まれたとみられる小売店(スーパー等)が相次いでいることが判明した。

一方で、多くのドラッグストアでは生鮮食品は一部のみしか販売されていないため、競合スーパーの撤退による「買い物難民問題」が発生することとなり、スーパー跡の大型空き店舗問題と合わせて自治体などが対応に追われることとなっている状況も明らかになった。



写真：競合店・競合スーパー近くに出店することで店舗網を拡大するドラッグストア。(筆者撮影)



図：大型小売店業態別販売額推移

経済産業省『商業動態統計』を基に筆者作成。商業動態統計におけるコンビニ販売額は1998年、ドラッグストア販売額は2014年から集計開始。なお2015年、2017年、2020年等には一部母集団標本替えなど調査概要の軽微な変更が行われている。1997年以前のコンビニ売上統計は商業動態統計との誤差が少ない日本フランチャイズチェーン協会統計を基に作成した(薄緑線)。百貨店販売額は1994年に総合スーパーに、2009年にはコンビニエンスストアに、2019年にはドラッグストアに抜かれた。スーパー販売額は1990年代後半から2019年まで大きく変わっておらず成熟した業態であるといえるのに対し、ドラッグストアは成長著しい。

参考文献

若杉優貴 (2019) : 店が増えても買い物難民!? 「食強化」に挑むドラッグストア、「業態拡大」のその先にあるものは、扶桑社,ハーバービジネスオンライン,2019/08/29. (ウェブ記事)

高校生における性教育の理解度をみる尺度の検討

○松崎 拓也 (久留米大学比較文化研究所 北九州工業高等専門学校) 野田 耕・鍋谷照 (久留米大学)

キーワード 性教育 保健科 質問紙 因子分析

I. 緒言

日本における性教育のあり方についてはさまざまな議論がされてきている。しかしながら、どのような性教育の内容や方法等が児童生徒の性教育について知識や理解を深め、健康行動へと寄与するのかについては結論を得ていないのが現状である。高等学校においては、保健体育科の保健科目で取り扱うに規定されており、授業の実施に際して学校によっては外部講師や養護教諭により別講義などが実施されており、性教育については重要性があるものと思われる。

本研究では、高校生を対象に保健の授業など性教育の理解度を測るための尺度を作成し、保健科授業の充実を図ることを目的とした。

II. 研究方法

1. 対象者

福岡県立の2高等学校の1・2学年生徒626名で、回答について無効なものを除いた596名(有効回答率95.21%)を分析対象とした。性別においては、男性297名・女性280名・答えたくない18名であった。

2. 調査内容

調査項目については、高等学校教諭専修免許状(保健体育)を有する2名の有識者により、高等学校で使用されている保健科の教科書と先行研究を参考に性教育の理解に関する設問15項目を作成した。回答については「1. 全くあてはまらない」～「5. とてもあてはまる」の5件法を用いた。調査方法については、集合法でおこなった。本研究は北九州工業高等専門学校倫理委員会での承認を得た。

3. 分析

分析については、SPSS statistics ver27を用いて因子分析バリマックス回転(因子負荷量0.400以上)をおこなった。また尺度の信頼性を検討するためにクロンバックのアルファ係数をもとめた。

III. 結果および考察

表. 1 因子分析の結果

1. 因子分析

因子分析の結果、3因子が抽出された(表. 1)、第1因子については「妊娠によって責任がうま

因子名	項目	因子負荷量
第1因子 性への意識	2 交際するときは相手を尊重する。	.887 .144 .011
	1 妊娠によって責任がうま	.870 .198 -.047
第2因子 相手のからだ ところの理解	8 異性のからだところを理解している。	.087 .904 .046
	9 同性のからだところを理解している。	.281 .835 -.021
第3因子 性の理解	14 性について悩んでいる。	.051 .003 .851
	11 性について知りたいことがある。	-.083 .022 .846

ることを理解している。」など性への興味などの項目から「性への意識」と命名した。第2因子については「異性のからだところを理解している。」など他者のからだなどの項目から「相手のからだところの理解」と命名した。第3因子については「性について悩んでいる。」など性への問題などの項目から「性への理解」と命名した。

2. クロンバックのアルファ係数

信頼係数については、第1因子0.735、第2因子0.759、第3因子0.612のある程度高い数値がみられた。

3. 考察

「性への意識」の項目から、性を意識することにより、他者を思いやるなど責任も生じてくることの認識の芽生えが推測され、交際をするときはお互いに尊重しなければならないものと感じていることが考えられる。「相手のからだところの理解」の項目から、高校生は相手を理解しようとしていることが考えられる。「性への理解」の項目から、性への興味が同え、他者(異性・同性)への意識が現れているものと思われる。これらの結果からこの質問紙は、性教育の理解度を測る尺度としてある程度妥当性のあるものと思われる。

非言語的コミュニケーションとしての皮膚刺激

—認知症介護スキルとしての一考察—

○城戸 由香里 (久留米大学比較文化研究所) 石田 有紀・園田 直子 (久留米大学文学部)

キーワード 非言語的コミュニケーション 認知症介護 皮膚刺激

I. 緒言

介護の場面で用いられるコミュニケーションは大きく、「言語的」と「非言語」に大別することができる。アルツハイマー型認知症は、重度のステージにおける語彙は5個以下に減少する (Reisberg 1986) とされており、認知症の進行に伴い、非言語的コミュニケーションがより重要な役割を果たすことが伺える。そこで、本研究は非言語的コミュニケーションとしての皮膚刺激に着眼し、介護職員が認知症高齢者へ「触れる」場面、期待する効果、触れる部位や方法について調査し、それらをカテゴリー分けすること、更に、介護スキルとしての構造化への知見とすることを目的とした。

II. 研究方法

2020年9月、A医療法人で勤務する職員48名を対象に、認知症ケアで「情緒的ケアのために体に触れる」ことについて、自記式質問用紙にて、①頻度(「ない」「あまりない」「ときどきある」「よくある」の4件法)と②その内容(自由記述にて「場面」「期待する効果」「触れる部分と方法」を質問)の調査を行った。さらに②については心理学専門職3名により、KJ法を用いてそれぞれ分類を行った。

III. 結果

調査協力者の内訳は性別：男性17名女性31名、年齢：平均43.40歳(MAX67, MIN22, SD12.19)であった。

① 頻度については図1のとおりである。

② 内容についての自由記述のカテゴリー分けは表1.2.3のとおりである。

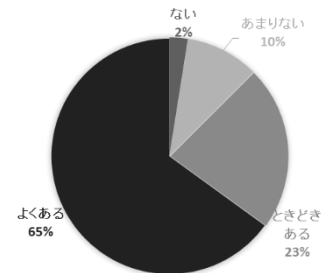


図1.触れる頻度

表1.場面と記載例

場面	記載例
利用者の注意を促す	移動など体を動かしてもらいたいとき
介助時	入浴、排泄、食事などの場面で
挨拶として	久しぶりにお会いした時
コミュニケーション	会話中
落ち着いてもらう	利用者が落ち着かないとき
傾聴していることを伝える	不安の相談を聞くとき
利用者を安心させる	利用者が不安なとき
その他	マッサージ

表2.期待する効果

期待する効果	記載例
安心感	一緒にいるよという安心感
落ち着き	心を落ち着かせる
信頼感の構築	利用者との関係性、親近感
笑顔の表出	笑顔になられる
ぬくもり	利用者の手が冷たい人が多い。手を握り温かくなってもらう
介護をスムーズに行うための実用性	安全に介護する
コミュニケーションの促進	会話ができる
その他	気持ちを伝えるため

表3.触れる部分と方法

部分	方法の記載例
手	握る、触れる、繋ぐ、握手
肩	手を添える、撫でる、さする
腕	撫でる
背中	手を添える、さする
膝	手を置く
頬	触れる
額	手を置く
足	触れる
痛いところ	マッサージ
その他	髪の毛

IV. 考察

協力者の多くは情緒的ケアのために皮膚刺激を用いていた。認知症介護者は、皮膚刺激を言語的コミュニケーションと併用する場合(会話中、コミュニケーションの促進)と、非言語的コミュニケーションとして単独で用いる場合があること、更に、言語の代わりに道具的目的で用いている場合(注意を促す、挨拶として)と、情緒的目的で用いている場合(安心感、落ち着き)があることが示唆された。今後の課題としては、場面、効果、触れる部位や方法の相互の関係を検討し、皮膚刺激を認知症介護スキルとしてのコミュニケーションツールとして構造化することにある。

集団内上位メンバーの特性が所属集団に反映されることと集団同一視の関係

赤須大典 (久留米大学比較文化研究所)

キーワード 集団同一視 集団の上位メンバー 特性の反映

目的

集団同一視は集団に所属した成員が集団の性質や特徴を自らに取り入れ、自己を集団と同一視する行為である (Hinkle, et al., 1989) 一方、所属集団の自己と成員の類似性についてセルフアンカリング仮説 (Clement & Krueger, 2002) という、自己を集団成員に投影し所属集団内の類似性を認識するという知見がある。このプロセスによる類似性は自身と集団を同質と考えている点においては集団同一視と同じ状態である。赤須 (2014) ではリーダーや幹部など集団の上位者が自己の性質を集団成員の認知に反映させていることを明らかにした。このことから集団の上位者は自らの個人的な性質を集団の性質として反映させることを集団同一視として行っていると考えられる。そこで今回の調査は集団の上位者が自分の性質が集団メンバーにより反映されていると認識できるときに集団同一視が高まると仮説を立てて検討する。

方法

調査対象者は大学の学部生 62 名。各調査対象者が過去にリーダーや幹部など上位の成員であった所属集団を想起させ、その集団に対して上位者の立場から回答を行わせた。Luhtanen & Crocker (1992), Duckitt ら(2005), Leach ら(2008) より集団同一視に関する質問を6種類、各2問ずつ1回目と2回目用に抽出した。林 (2001) から性格特性に関する中立語 (以下N語 9個, ポジティブ語 (以下P語 3個を用いた。各調査対象者に所属集団について1回目の集団同一視の測定 (6項目5件法) を行った。その後12個の性格特性語が「自分にどの程度当てはまるか」、そして「所属集団の成員がどのくらいその特性を持つべきと思うか」の両方を答えさせた (各5件法) 最後に2回目の集団同一視の調査を行った。

結果

調査対象者から集団成員への特性の反映として両者の特性語の点差を二乗し平方根した値をN語とP語それぞれで算出し、自分から集団への特性の反映の度合いとした。値が平均より低い群を自分の性質が反映された反映群、もう一方を非・反映群とした。6つの同一視で群と回数を要因とする2要因分散分析を行ったところP語で「グループに対する好感」に交互作用が認められ ($F(1, 60)=11.24, p<.01, \eta^2=.02$) 2回目で反映群が有意に強い同一視を示し、非・反映群では2回目でも有意に同一視は下がっていた (図1) 残りは3つの同一視で回数による主効果が認められた (表1)。

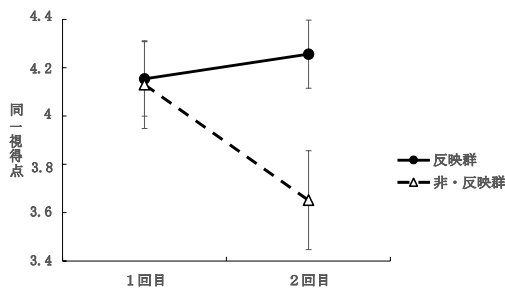


図1 「グループに対する好感」における各回と反映群と非・反映群での同一視得点の平均点と標準偏差

表1 集団同一視の5項目における各回の平均点と (SD) とF値

	1回目	2回目	N語	P語	F値
グループの一員となれて良かった	4.29 (0.91)	4.23 (0.93)	0.69	0.77	
メンバーに対する好意	4.23 (0.89)	3.97 (1.06)	5.16 *	4.66 *	1回目>2回目
周囲から感じるグループの高評価	3.69 (0.98)	4.10 (1.00)	7.37 **	7.54 **	1回目<2回目
グループ内の周囲の人との共通性	3.31 (1.17)	2.77 (1.17)	18.99 **	17.03 **	1回目>2回目
自己イメージ	3.52	3.77	2.95		

考察

自己評価の反映の度合いによる集団同一視への影響は「グループに対する好感」において観測された。2回目の同一視の点数が非・反映群で有意に低下したことから、所属集団成員が自分と同じ特性を持っているとより強く認識することでグループ自体への好意を上昇させることが分かる。この点から集団の上位者の場合は、2回目が高い「グループの高評価の認識」の結果と合わせて、自分が集団に影響を与えることが集団同一視の一側面となっているからと考えられる。メンバーとの関係性に関しては、反映の度合いの影響は見られないが回数による有意な差は生じており、2回目の同一視が低下している。こちらは逆に評価という行為で自分と成員を同一視する意識が途切れたためではないかと考えられる。

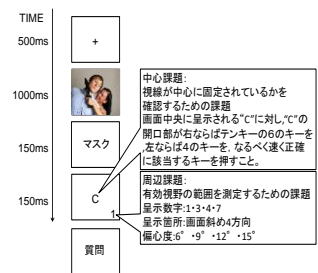
感情喚起が注意資源配分範囲に与える影響

○増田 奈央子(久留米大学比較文化研究所・大阪大学大学院人間科学研究科)・園田 直子(久留米大学文学部)

キーワード 感情 有効視野 注意資源

問題と目的: 本研究の目的は、感情を喚起させたとき注意資源配分範囲に与える影響を検討することである。高覚醒・ネガティブ刺激の喚起は、高覚醒・ポジティブ刺激や低覚醒・ニュートラル刺激より有効視野が縮小することが示されている(野畑・箱田・二瀬,2007)。つまり、覚醒度の高いネガティブ刺激を見たとき、注意資源を広い範囲に使用することができず、処理できる範囲が狭くなることが分かっている。一方で、感情に関わらずナイフなどの凶器を見ることによって有効視野が狭くなることも示されている(Harada・Hakoda・Kuroki・Mitsudo,2015)。ナイフを向けられるといった行為は日常的には命にかかわるような場面が多いと思われる。自分の身を守るために注意資源をナイフなどの凶器に多く使い、結果的に注意資源を広い範囲に使用することができなくなってしまったと考えられる。これらのことから、注意資源を多く用いて処理をすべき場面のとき、注意資源配分範囲が狭くなると考えられる。注意資源を必要とする課題を行うとき有効視野は縮小する(Leibowitz&Appelle,1969)。有効視野とは、見ている視野の中で情報を知覚し、認知し、処理することができる範囲のことを示す(三浦, 1993)。もし感情を喚起させる場面によって必要とする注意資源量が異なるのであれば、有効視野の広さも異なることが考えられる。そこで本研究では、感情喚起時の有効視野の範囲を測定することによって、感情が注意資源配分にどのような影響を与えるか検討する。

実験 実験参加者: 大学生 17 名 (男性 3 名, 女性 14 名) が実験に参加した。平均年齢は 20.9 歳 (SD=2.1 歳) であった。 **刺激:** IAPS (Lang,Bradley,&Cuthbert,2008) と OASIS(Kurdi,Lozano,&Banaji,2017)より 90 枚を用いた。 **手続き:** 実験参加者は顎台を用いて顎と頭を固定し、パソコン画面から 57 cm離れたところから観察してもらった。実験の流れを図 1 に示す。中心課題反応後、周辺課題について質問を行った。数字が呈示されたか否か、どの位置に現れたか、数字は何であったかの 3 つであった。次に、感情価と覚



醒度の評価を行ってもらった。練習試行は 10 試行行った。本試行は 100 試行行い、そのうち、周辺課題の数字が呈示されない試行が 10 試行、感情を喚起させる刺激画像が出てこず白紙の画面が出現する試行が 20 試行あった。また刺激の呈示順序、中心課題の“C”の向き、周辺課題の数字および位置はすべてランダムな順序で呈示した。

結果と考察: 周辺課題について行った質問 3 つに対してすべて正答したものを周辺課題の正答として用いた。また中心課題に対する反応が正しかった試行のみを用いて分析を行った。感情価は 1~3 をネガティブ、4~6 をニュートラル、7~9 をポジティブに分類し、覚醒度は中央値の 5 を区切りに低覚醒、高覚醒に分類を行った。感情喚起画像が出てこない試行は統制条件として用いた。周辺課題の正答(1=正答, 0=誤答)を従属変数に、感情価(ネガティブ・低覚醒, ネガティブ・高覚醒, ポジティブ・低覚醒, ポジティブ・高覚醒, ニュートラル, 統制), 偏心度(6, 9, 12, 15)を独立変数とする一般化線形混合モデルによる分析を行った。その結果、統制条件のとき偏心度によって有意に成績が低下せず、80%以上の成績が保たれていることが示された。これは感情を喚起させる場面ではないときには有効視野が狭くならないことを確認することができたと考える。次に偏心度 12°, 15°のとき統制条件よりネガティブ・高覚醒条件は有意に成績が低下することが示された(それぞれ $b=-0.23, SE=0.09, Z=-2.58; b=-0.25, SE=0.08, Z=-3.28$)。野畑ら(2007)と同様、ネガティブ・高覚醒感情を喚起させたとき有効視野が縮小することが示された。また偏心度 6°のとき統制条件よりネガティブ・低覚醒条件は有意に成績が低下することが示された($b=-0.26, SE=0.10, Z=-2.67$)。通常、偏心度が狭い条件のときに成績が低下することはあまり考えられない。ネガティブ・低覚醒感情は気持ち悪い、避けたいといったネガティブ感情が含まれている。このことから処理したくない、見たくないといった感情を喚起させ、その後の有効視野測定課題に影響を与えた可能性が考えられる。以上のことからネガティブ感情喚起時に注意資源範囲が異なることが示されたが、覚醒度によって処理方法が異なる可能性が考えられる。

コロナ禍における小中学生の自殺者数の動向

池田 博章 (久留米大学比較文化研究所)

キーワード 小中学生の自殺、コロナ禍

1. 諸言

厚生労働省 (2019) の「平成 29 年人口動態統計」によると、戦後初めて日本人の 10~14 歳の死因として自殺が 1 位となった。また、コロナ禍における児童生徒の自殺について、厚生労働省・警察庁 (2021) 「令和 2 年中における自殺の状況」によると、2020 年の児童生徒 (小中高生) の自殺者数が統計のある 1980 年以降最多の 499 人となっている。このように、近年、児童生徒の自殺問題が顕在化してきている。本研究の対象は、10~14 歳世代を含む小学生と中学生の児童生徒とした。10~14 歳世代の特徴は、他の世代と比べて自殺の原因・動機に関する判断資料を残していない割合が突出して高く、特にコロナ禍以前から「9 月 1 日問題」にあるように、夏休み明けなどの学校の長期休校の前後に自殺者が多くなる傾向にあった。本研究は、コロナ禍 (2020~2021 年) における小中学生の自殺の動向を分析することを目的とした。

2. 研究方法

コロナ禍における小中学生の自殺者数の推移については、文部科学省 (2021) 「令和 2 年児童生徒の自殺者数に関する基礎資料集」および厚生労働省の「自殺の統計：地域における自殺の基礎資料 (令和元年~令和 3 年)」のデータを使用し、分析を行った。

3. 結果および考察

2021 年 1~12 月の小中学生の自殺者数 (暫定値) では 160 人 (小学生 11 人、中学生 149 人) となっている。この値は、2019 年 1~12 月 (コロナ禍前) の小中学生の自殺者数 40 人より多く、児童生徒 (小中高生) の自殺者数が過去最多であった 2020 年 1~12 月 (コロナ禍) の小中学生の自殺者数 160 人と水準で推移してことがわかった (図参照)。また、月別の小中学生の自殺者数をみると、コロナ禍においても長期休み明け前後 (特に 8 月、9 月) に多い傾向がみられた。通年で小中学生の自殺者数が出ていることから、通年での対応も必要であるが、特に長期休み明け前後の児童生徒に対する重点的なケアが求められる。

この状況を踏まえて、文部科学省 (2021 年) は各都道府県教育委員会などに対して、「令和 3 年 3 月 1 日 児童生徒の自殺予防について (通知)」を出している。同通知では「新型コロナウイルス感染症に伴う長期にわたる学校の休業においては、通常の長期休業とは異なり、教育活動の再開の時期が不確定であることなどから、児童生徒の心が不安定になることが見込まれる。そのため、学校として、保護者、地域住民、関係機関等と連携の上、教育活動再開後の児童生徒の自殺予防に向けた取組を積極的に実施すること」としている。現在、学校における早期発見に向けた取組みが行われている。

例えば「SOS の出し方に関する教育を含め

た自殺予防教育の実施」やスクールカウンセラー

等による支援 などである。しかし、このコロナ

禍では、オンライン授業や分散登校などで子ども

の微妙なサインを発見しにくい現状にあるため、最も重要な取り組みは、前述の文部科学省

(2021 年) の通知にあるように、学校だけではなく、保護者、地域住民の参画や、関係機関等と連携の上、児童生徒への見守り活動を強化し、地域で子どもたちの不安や悩みの声に対して支援を行えるシステムを構築することが重要だと思われる。

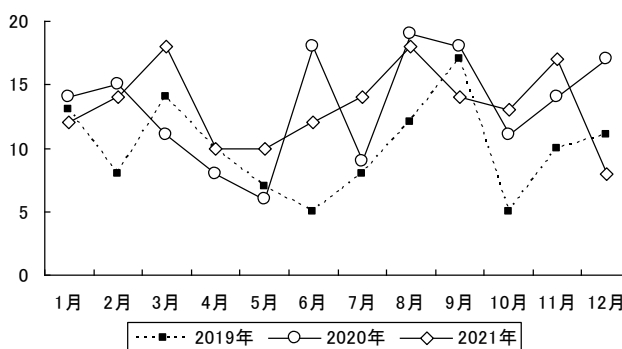


図 コロナ禍における小中学生の自殺者数の推移 (2019~2021 年)
注: 2021 年 1~12 月の自殺者数は暫定値

牛島謹爾の資料収集について

中畑 義明 (久留米大学比較文化研究所)

キーワード 牛島謹爾 千葉豊治 加州中央農会 大規模機械農法 倫理的帝国主義 満鉄

概要 これまでカリフォルニア州立大学バークレイ校バンクローフト図書館所蔵のジェームズ・フィラン文書、同アジア研究所所蔵の資料及び学位論文、更に太平洋大学所蔵の資料などを閲覧、またサンオーキン歴史協会所蔵の土地台帳の中に George Shima の名を探しあて、更に 1900 年前後のカリフォルニアに於ける牛島謹爾の就農当時の資料も見つけた。

今年度もコロナ禍のため米国での資料収集は叶わなかったが、幸いにも年末に、昨年同様、早稲田大学史資料センターで資料を探す機会が得られ、浮田文書中の書簡から『千葉豊治遺稿 上・下』と『千葉豊治追憶録』に辿り着いた。『千葉豊治遺稿 上・下』ではカリフォルニアに於ける日本人の就農問題や在米日本人会及び会長牛島謹爾に関する記述などがあり、これまで曖昧だった点が明確になると共に、ポテト王としての牛島謹爾の姿と在米日本人会会長としての姿が浮かび上がってきた。

2021 年度の成果 千葉豊治は宮城県立農学校を卒業後、早稲田大学で浮田和民に政治学を学ぶと共に、強い影響を受ける。その豊治が、1906 年、アメリカ留学に際し、恩師浮田和民より義弟牛島謹爾を紹介され、在米日本人会とも深い関わりを持つようになると共に、サンフランシスコで安孫子久太郎の邦字紙「日米」の記者として農業部門を担当する。やがて日本政府の支援を得て日本人農民を指導する「加州中央農会」を設立し、常任専務理事として日本人農民にカリフォルニアの大規模機械農法などの指導を行う。そして自ら日本人排斥の渦中から、在米日本人や日本政府に対し冷静な対応を提案し続ける。

しかし 1924 年に排日移民法が成立すると、千葉豊治は拠点を満州に移し、「満鉄」の農業部門の各種理事として恩師浮田和民の「倫理的帝国主義」に基づきながら、カリフォルニア式大規模機械農法の満州移植に尽力する。1945 年 3 月、胃がんで死去するが、彼は満鉄の原稿用紙に口述筆記『千葉豊治遺稿 上・下』（同志社大学所蔵）を残し、また葬儀では同僚、知人、子供などによる『千葉豊治追憶録』（宮城県立図書館所蔵）が配られた。

『遺稿 上・下』は「満鉄」の理事として満州の農業にどう携わったかを回顧するのが目的であったが、カリフォルニアと満州の類似性及び大規模機械農法の必要性を説くためにカリフォルニアでの彼の業績を語り始めるが、口述の目的である満鉄の農業部門の理事としての業績を語る直前に胃癌で逝去する。また『追憶録』には、彼の導入による大規模機械農法が満州でかなりの成果を上げたこと、国策の満州移民が始まると、大規模機械農法は顧みられなくなり、日本の集約的農法が中心となるにつれ、満州農民とのトラブルが発生したことなどが、彼の同僚、友人、子供によって残された。

千葉豊治は海老名弾正、新渡戸稲造、後藤新平などの渡米に関わり、松岡洋右など要職にある政府関係者との深い繋がりを持ち、広く・深く日米関係を見渡せる立場にあったので、『千葉豊治遺稿 上・下』は、様々な人物が著した著作と比べても群を抜いて説得力があるものとなった。

2022 年度の課題 国内においては同志社大学所蔵の下村孝太郎文書と浮田文書の閲覧、米国においてはこれまで見つけた土地台帳以外のものを探すと共に、1920 年代の銀行の融資関係の index を頼りに融資内容についても調べたい。

今後の見通し 牛島謹爾の死後、倉富了一著『馬鈴薯王牛島謹爾完』（私家版、昭和 7 年）、池田宣政著『牛島謹爾』（大日本雄弁会講談社、昭和 16 年）は反米と鬼畜米英的な雰囲気の下で著された。しかし私は『千葉豊治遺稿 上・下』と『千葉豊治追憶録』を踏まえ、牛島謹爾のカリフォルニア州 New Hope 入植し沼沢地開墾に従事する様子や 1913 年の土地禁止法以後、Lee Phillips が浚渫・開発を担当し牛島謹爾が 3 年の借地契約のもとポテト生産に専心する様子、更にカリフォルニアの排日政治家への抗議と日本人農民を支援する市民団体などの資料なども交え、ポテト王と呼ばれ在米日本人会長を務めた牛島謹爾の姿を、偏らない視点で、描きたい。

* 御井図書館の皆さまのご尽力で千葉豊治の『遺稿』及び『追憶録』を読むことができたこと心から感謝しております。

中国における自動車企業の環境マーケティング・コミュニケーション戦略の構築に関する研究

丁 青(久留米大学比較文化研究所)

キーワード 環境マーケティング・コミュニケーション 環境(エコ) 競争優位

1. 研究背景

中国自動車市場は、中資系のみならず世界各国の自動車関連企業にとって、販売台数の拡大を目指す上での主戦場となっている。一方、自動車の普及に伴う環境問題が深刻化する中、中国では、低公害車、ハイブリッド車などを「エコカー」の開発販売普及が非常に重要になる。環境面での大気汚染対策と渋滞対策という面と国内自動車産業育成という意味でも環境マーケティング・コミュニケーション戦略を採らざるを得ない状況であろう。

2. 研究方法

自動車に関する研究アプローチは、すでに経済学、社会学など様々な方法で研究がなされてきたが、環境マーケティング・コミュニケーション戦略の視点からの研究は未だに少ない状況にある。そこで、本研究では、このような課題を切り口として、環境マーケティング・コミュニケーション戦略の理論研究を行う。

3. 研究目的

環境(エコ)を新たな競争優位の源泉として捉え、自動車企業がどのように消費者とコミュニケーション戦略を採るべきかについて検討しつつも、今後環境マーケティング・コミュニケーション戦略を展示することが本研究の目的である。

4. 考察

具体的には、まず、環境(エコ)・競争優位の源泉・マーケティング・コミュニケーション戦略などに関する先行研究をレビューし、環境マーケティング・コミュニケーション戦略の一般化理論を試みる。

そして、国際比較の視点から、中国における自動車市場の環境マーケティング・コミュニケーションの構造と実態を分析し、それらの異同を明らかにすることである。

それから、自動車企業の事例研究を行い、環境マーケティング・コミュニケーション戦略のフレームワークを検討する。

さらに、中国での実証研究を行い、その結果を踏まえて中国における自動車企業の環境マーケティング・コミュニケーション戦略の一つの思案を提示する。

世界でエンジン車からEV車への大転換についての考察

陳 宥蓉 (久留米大学比較文化研究所)

キーワード 脱炭素化社会 エンジン車 電気自動車 (EV) LCA

I 研究の目的及び方法

世界的な脱炭素化社会の流れが、自動車産業を取り巻く環境を大きく変化させている。欧州をはじめ、ガソリン車、ディーゼル車の新車販売を2030～2040年にかけて事実上禁止し、電気自動車 (EV) などへの移行を目指す方針を示した。欧州委員会は、ハイブリッド車 (HV)、プラグインハイブリッド車 (PHV) とも禁止する見込みだ。さらに、自動車へのLCA「ライフサイクルアセスメント」(自動車などの原材料の生産、利用、廃棄の際に排出される二酸化炭素量を評価) 規制が導入される。

一方、米国は、2030年の新車販売に占めるEV、PHVと燃料電池車 (FCV) の割合を50%に引き上げると表明した。世界最大の自動車市場である中国も、2020年10月に「2035年に電気自動車5割。ハイブリッド5割」という政策を打ち出した。日本の経産省は、2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略のなかで、「2030年までに新車販売で電動車 20～30%、2040年までには、新車の販売で電動車と合成燃料等の脱炭素燃料の利用に適した車種で、合計100%を目指す」等の枠組みを決めた。

以上の背景により世界におけるEVの市場規模は、2035年までに20年比11倍の2,418万台に拡大すると予測されている。

国	次世代車への対応	発電構成(2018年)			EVのLCA CO ₂ (HEV比)
		石炭	原子力	再生、水力など	
独	2030年までにエンジン車販売禁止 (HEVはOK)	37%	11%	38%	×
英	2030年までにエンジン車販売禁止 (2019年9月の国連決議を受けて変更) 2035年にはHEVも禁止	5%	19%	33%	○
仏	2040年までにエンジン車販売禁止 (HEVはOK)	2%	71%	20%	◎
印	2030年までに新車は全てEVにと2017年に表明したが、2018年2月に早々に断念。 MHEV、HEVに転換 EVを30%とする(電力を供給できるのか?)	75%	2%	18%	×
中	2035年に全て電動車にすることを目標とする HEV50%、PHV+EV+FCV50%、FCV100万台	66%	3%	25%	×
米国加州	2035年までにエンジン車の新車販売を禁止	0%	11%	60%	○
日	2035年までに新車の全てを電動車(HEVを含む)とする 排出枠取引制度の検討開始	32%	6%	18%	×
ノルウェー	2025年に新車販売を全てEVとFCVとする エンジン車、HEVは販売禁止	0	3%	97%	◎
カナダ	ケベック州が2035年までにエンジン車禁止	8%	15%	65%	◎

出典：日本経済新聞『EV世界市場』

以上の事情を踏まえて、本研究はまず主となる国 (EU、米国、中国、日本) でEV車への転換動向を分析し、また再生可能エネルギーの構成状況をレビューした上で、エンジン車からEV車への大転換に向けての課題を提示する。

II 考察と結果

- ① 上記の世界的な流れを見ると、新型コロナ禍による景気の低迷を受けながらもエンジン車全廃の方向に向かっていくことになり、大量のエンジン車へのリサイクル問題解決が急務である。
- ③ EV普及に向けての課題は電力の確保である。電気で走行するEVにとって充電を確保するための設備は必要となり、そのために充電ステーションなどのインフラ整備が望まれる。しかし、現在のガソリンスタンドを充電ステーションに切り替えるとしても、時間とコストが膨大なため、国をあげて取り組む必要性がある。また、どの場合でも発電にCO₂発生が伴うような設備では、EV普及の意味が崩れてしまっている。再エネをはじめとした、CO₂を発生しないクリーンなエネルギーの確保も重要である。
- ③ 車載バッテリーは、7～10年使用すれば蓄電容量が低下し、交換が必要である。今後、電気自動車 (EV) が普及するには、使用済みバッテリーのリユースとリサイクルの体制整備が極めて重要である。

ロールシャッハ・テストに関する近年の研究動向(2)

—2011年から2020年まで—

天満 翔(久留米大学)

キーワード：ロールシャッハ・テスト 文献レビュー 研究動向

I. 問題

ロールシャッハ・テスト(以下、ロ・テスト)とは、スイスの精神科医 Rorschach が創始した、インクを垂らしてできた10枚の図版を用いて行う代表的な投映法の1つである。施行する際の「何に見えるか?」という問いかけは、決して難しい課題ではないため、年齢別による研究や文化による違いも多種多様な角度から研究されており、その研究文献数は他のテストの比ではない。本稿に先立ち天満・日高(2011)では、2000年から2010年までの約10年間にわたるロ・テスト研究を振り返った。研究内容としては既存のスコアリングと解釈の妥当性及び信頼性に関する研究、新たなスコアリングや解析方法の提唱や適用領域の拡大を試みる研究、DSMにおける精神疾患やその他の疾患の関連する研究、そしてDSMの中でも発達障害に関連する研究の4点が研究テーマとして挙げられた。本稿では新たに2011年から2020年までの10年間のロ・テスト関連の精神医学、心理学関連の文献を振り返ることで近年の研究動向について概観し、これまでのロ・テスト研究の潮流および現状を明らかにしたい。

II. 方法

具体的な方法としては、国立情報学研究所(NII ; National institute of informatics)が運営するデータベース群 CiNii, また、Google Scholar, J-stage を用いて「ロールシャッハ」「Rorschach」をキーワードに検索を行った。

III. 結果

CiNiiによる最初の検索において、計360件が抽出された。計360件のうち、ほぼ同一の結果が学術論文で公表されているものもあつたため紀要論文や博士論文を除外し、文献紹介、講演、コラム、追悼文を除く査読付き学術論文であることを基準として対象とする論文を選択した。次に、Google Scholar や J-stage など他のデータベース群でも同様に検索し、入手することができた計68件が最終的に採択された。これらを佐渡ら(2012)を参考にして研究テーマ別に「論考(15本)」、「基礎研究(5本)」、「発展応用研究(4本)」、「精神科臨床(20本)」、「身体疾患(2本)」、「治療効果測定(7本)」、「発達研究(9本)」、「非行・犯罪(4本)」、「心理的要因(2本)」の9項にまとめられた。

IV. 考察

ロ・テストの近年の研究動向としては、理論的、文献学的な考察を行った「論考」や技法やスコア基礎的な検討をした「基礎研究」よりも、主として精神科領域のテーマを検討した「精神科臨床」、心理的援助の治療効果を検討した「治療効果測定」、さらには「身体疾患」など臨床研究が僅かではあるが多く見られた。また、基礎研究でありながら基礎データのみを示した研究は少なく、臨床的性格が強い結果となった。このことはロ・テストが心理検査としての客観性と科学性を保つために臨床実践を通して結果の整理や解釈法の検討、客観的なデータの蓄積がこれまで積み重ねられてきた背景があることが伺える。また、これらの臨床研究によって得られた知見から研究者がロ・テストで何を捉えようとしているのかが具体的になったことから、その理解と精度を高めるために、相補的に技法・解釈法に関する理論的、文献学的研究を行うことで、その方法論を再検討していることも推察される。過去のロ・テストを用いた研究の多くでは、“特定の臨床群には特異な人格特徴がある”という演繹的前提に立っていたが、多様化した現代において一定の人格特徴があるという視点だけでの理解は難しく、多くの研究では“それぞれ〇〇という反応(特性)から不適応(障害)に至る”という帰納的観点から研究が行われていた。

発達研究の分野では、かつては野沢・清水(1969)、小沢・片口(1970)、大野(1984)などで学童期から青年期へのロ・テストスコアから発達の変化を検討している研究も見られたが、近年の研究動向としては発達障害を対象とした研究が多く見られた。近年、ASDをはじめとする発達障害に対する社会的関心の高まりに伴い、医学領域、心理学領域においてロ・テストも研究報告や知見が多く蓄積されてきており、様々な視点に基づく障害の理解が進んでいるように思われる。

律令期の国府・国分寺の立地に関する一考察

－歴史地震（貞観地震）を中心に－

高木 恵（久留米大学比較文化研究所・久留米大学非常勤）

キーワード 国府 国分寺 律令時代 歴史地震 施設立地 津波

I. はじめに

我が国では律令期、奈良の朝廷を中心とする中央政府は、地方支配のためにその拠点となるべく様々な官衙を設置した。中央政府は、全国を行政単位としての「国」に分け、その下に郡、里を置く「国郡里（郷）制」を採用した。その結果、奈良時代末の国数は 68 に及び、各国には中央政府の出先機関である国府が設置された。その後、聖武天皇の「国分寺建立の詔」により国府と同数の国分寺が各国に設置されることとなった。本抄録では陸奥国の官衙である多賀城と陸奥国で発生した歴史地震（貞観地震）の記録をまとめたものとなる。なお、国府・国分寺をはじめとした施設立地には地震の発生有無は直接の関係性は無いと推測されるものの、水害・活火山・地震等の自然災害頻発地はそれら立地に大きく影響を及ぼすものと考えられるために同じ自然災害として今回は歴史地震を選択した。ただし、地震そのものはいつどこで発生するものかを推測すること自体が困難であるために水害などの自然災害よりも影響力は格段に低いと思われるものの周期的に発生する南海地震と日本海溝地震はそれなりの影響があったと思われる。最終的には当時の権力者層が国の重要施設をその場所に選定した要因の 1 つとして自然災害対策を組み込めればと期待している。

最終的な研究目的は、当時の国内景観を復元することによる統治者層の空間認識を考察することであるが、本抄録の中身は立地条件に大きく影響を与えるであろう自然災害の中で対象年代に発生した歴史地震（貞観地震）を中心にまとめたものとなる。なお、地震歴史とは歴史時代に発生した地震のことである。

II. 象国・対象年代・歴史地震史料

陸奥国は現在の東北地方（青森・岩手・宮城・福島・秋田北東部）であり、東海道に位置する。国力は大国、距離は遠国で国内には 35 郡 193 郷が属していた。国の役所である国府は神亀元（724）年以前には郡山官衙遺跡（宮城県仙台市太白区）に、724 年から 10 世紀までは多賀城（宮城県多賀城市市川）に、そして 10 世紀以降は多賀国府（推定地・宮城県仙台市北東部）に置かれた。律令期の中心となる時期は多賀城に国の中心施設が存在している。

歴史地震に関する資料としては『日本書紀』（720 年）、『続日本紀』（797 年）、『続日本後紀』（869 年）、『日本文徳天皇実録』（879 年）、『類聚国史』（892 年）、『日本三大実録』（901 年）などを用いた。

III. 史地震の回数

六国史をはじめとする史料では 9 世紀以降に地震の発生数が大きく増加するが、これは発生した地震の数が増加したのではなく、中央集権体制が整い全国の情報が確実に伝達・記録されるようになったためと考えられる。

年代	地震名	大きさ	特記事項（震源域）
貞観 11 年 5 月（869）	貞観地震	M8.3 - 8.6	地震に伴う津波の被害が甚大で死者約 1,000 人（三陸沖）

記録の信ぴょう性が低いもの、発掘調査の結果地震の大きさが不明なものは除外しても M7 以上を観測した地震は約 450 年間で 19。M8 以上に絞ったがそれでも 4 回起きている（主にプレート型地震）。

IV. 結論

紙面の都合上掲載がかなわなかったものの、江戸時代までの集落・街道・地形等が比較的残っている明治～大正期の多賀城を中心とする周囲の地図である大日本帝国陸地測量部の発行した二万分一地形図「岩切」（M37）「原田」（M38）「塩釜」（T0）「蒲生」（T0）を基図として 2011 年に発生した東日本大震災の津波浸水エリアを出すと多賀城跡はもとより明治期までの主要街道であった石巻街道や塩釜街道などは一切の浸水被害にあわない立地に位置していた。直線距離で多賀城跡まで約 1.6km の距離まで津波浸水（標高 3m 以下の地域）が起きていたが標高 32.5m の多賀城に関しては貞観地震の際にも浸水の心配はなかったと思われる。

今回の貞観地震のまとめからはすでに多賀城が設置された後に発生した地震であるために直接権力施設立地への影響

は考えられないが、それでもこの地域は周期的に大地震・津波の被害を被ってきた場所であるために蝦夷対策の最善基地と国内政治の拠点となる多賀城の立地を選定する際には七北田川・砂押川の氾濫原を避けた上で津波被害の無い標高30m以上の地点を選定したと思われる。